

第7回市民自治推進委員会 防災・環境部会会議録

- ◆開催日時：平成28年10月17日（月） 18：00～
- ◆開催場所：登別市役所2階 第5会議室
- ◆出席部会員：部会長 江口 武利
副部会長 川島 芳治
部会員 久保田 博史
丸 博子
関 修
澤田 時人（協働推進庁内委員会）
【総務部次長】
千葉 浩樹（協働推進庁内委員会）
【総務部総務G総括主幹】
- ◆欠席部会員：部会員 遠藤 潤
和泉 薫
- ◆事務局： 松田 毅 【市民生活部長】
笠井 康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】
有馬 亮太【市民生活部市民協働グループ主任】
- ◆議題：「健康」に関する取り組みについて

《事務局》

それでは、事務局から本日の会議の流れについて説明させていただきます。

始めに、10月11日に開催しました2回目の部会長・副部会長会議の概要について説明させていただきますから、部会長に引き継ぎたいと思います。資料のほうはA4の横になっている資料になります。

部会長・副部会長会議では、9月末までに各部会がこれまでに議論してきました健康に関する取り組みについての説明がありました。資料として配布しております、A4横のものについて説明いたします。

各部会ともこの資料の内容に沿って説明のほうがありました。まず、1番上から、ぬくもり部会は、特定健診の受診率を上げる取り組みを行うこととしておりまして、まずは市民自治推進委員会の委員の皆さんを対象にアンケート調査を実施することとしております。ぬくもり部会に関しましては鷺別地区の集団健診に申し込んだが満杯で断られたことがあったので、受診率を上げる取り組みをするのであれば、もう少し受診者の余裕があればいいとのお話がほかの委員さんからもありました。

それから防災・環境部会につきましては、前回皆さんとお話させていただきました、取り組みについては決定したところであります。内容につきましてはウォーキングをしながら自然環境に触れることによる健康増進ということの取り組みということで前回決定しましたので、部会長から説明していただきました。

また、産業躍動部会につきましては、地場産の食材を利用した料理教室の実施、それから温泉の効能についての調査を実施するという内容がありました。

都市調和部会につきましては、以前に市が作成した「きらり健康ふれあいウォーキングマップ」を、改めてリニューアルするということで取り組みをしていくということになっています。都市調和部会に関しましては、ほかに市の公園整備や健康遊具の設置の話、それから建物のコンクリートストレスというものについて話があり、木材を推進して使いましょうという部分を市営住宅に反映していきたいという話が部会の中でも出ておりました。

育み部会につきましては、市の公園の利用実態調査について取り組んでいくことになっております。育み部会に関しましては、公園の調査方法について質問があり、全ての公園ではなく、いくつか絞って調査するということになっており、地域と一緒に公園の在り方を考えていきたいという話がありました。

また、既存の公園使用のルールを変えることができないかという話がほかの委員さんからありました。

まちづくり部会につきましては、前回、皆さんにもお聞きしていただいた健康に関する講演会の開催と広報紙への健康のコラムの掲載について、取り組む予定です。具体的には運動器症候群というもので講演を行う予定です。

各部会の取り組みの方向性の説明のあと、事務局から市の平成29年度予算に関する説明を行いました。資料に記載のとおり、予算要求の事務を事務局のほうで進めさせていただいております。なお、防災・環境部会につきましては、市民向けのウォーキングイベントという話がありましたので、バスの借上げを要求する事務を進めておりますが、前回も話がありましたとおり、市のバスもありますので、利用については協議が必要であります、部会として予算の要求をしたと考えております。

また、都市調和部会のウォーキングマップの印刷製本費につきましては、市内の9地区分を想定しており、同じように予算のほうを要求する予定ですが、前回は9地区を3年かけて作成しておりましたので、今回につきましても短年度で、9地区つくるということであれば、短年度で予算措置というのが変更になる可能性もあるという話がありました。

そのほかに、部会間の連携に関する話がありまして、防災・環境部会のウォーキングと産業躍動部会の料理教室につきまして、例えばウォーキングをして

から料理をする話やウォーキングをしながら山菜を採り料理をしてはどうかという話があり、こちらの部会間の調整というのは事務局で行うこととなっております。

また、公園の関係についての取り組みは育み部会をメインとし、内容が固まったら、都市調和部会に報告をするということで、協議がありました。

市民自治推進委員会の委員長から、市役所の実施計画について、各部会で練ってもらった時間があっても良いのではないかという話もありました。健康に関する協議がある程度落ち着きましたら、市の第3期基本計画の実施計画に関して内容の確認等について各部会で行うことを検討することになると思います。

今回の部会長・副部会長会議につきましては、市民自治推進委員会の取り組みに関する市の新年度予算措置の報告などを案件としまして、年明けに開催する予定となりました。先日の部会長・副部会長会議の概要は説明させていただいたとおりになります。

以降は部会長のほうに引き継ぎたいと思いますが、部会長・副部会長会議の内容について、追加の説明等がありましたらお願いしたいと思います。また部会長・副部会長の会議内容につきまして、委員の皆さんから質問等があるかもしれませんので質疑応答についてもよろしくお願ひします。

部会長・副部会長会議に関する協議のあとは、この部会の取り組みに関して具体的な内容を皆さんと協議させていただきたいと思います。

部会長お願いいたします。

《部会長》

前回の部長・副部長会議の話ですが、その中で2、3付け加えることがあります。

まず、この部会の役割ですが、提案している内容について、これは誰がどう実施するのだという話がありました。市からはこれについて部会のほうも関わってもらおうということでした。我々が認識しているのは、提案をしたら終わりということ、年に何回かチェックするくらいの考え方です。実際に実施するにあたり部会も関わってもらいたいという話がありましたので、この辺も皆さん方の意見を聞きたいと思います。

また、以前から話が出ていましたコンクリートストレスですが、現在、千代の台団地の建て替えを行っており、まだ設計の段階であれば意見を反映させて欲しいということです。

公園については、予算が8千万円程度かかっているということで、公園の数や実際に管理しているのがどれくらいあるのかといった情報も整理し、多額の費用をかけている効果についても検証が必要であるといった話がありました。

公園の使用についても、禁止事項が多いので、もう少しみんなで利用できる方法を考える必要があるのではないかと思います。

また、まちづくり部会の講演会ですが、我々も参加したところ、あまり経験したことのない講演でしたので、これを全市的に行ったら良いのではと感じます。しかし、せつかく予算を立てるのであれば、もう少し回数を増やしたほうが良いのではと思います。

料理教室についてですが、ウォーキングをするだけではなく、ウォーキングをしたあとに料理をする、あるいは山菜取りや漁港周辺を歩いて漁師に材料をもらい、それらを利用した料理教室もできるのではないかと案も出ていました。

また、皆さんに提出いただいたアンケートですが、これについては今後検討して取り組んでみては良いのではないかと思います。似た意見が出ていると思います。ウォーキングと防災訓練の組み合わせをどうするかということ。これに部会が携わるといことになると、開催の団体と部会と市と、この3者が集まることとなります。役割分担にこの部会がどの程度関わるのか非常に難しい問題だと思います。

また、市で防災訓練を隔年で行っているのですが、そのやらない狭間に全市一斉にすることも一つの方法だと思います。

また、隔年9月に全市の防災訓練を行い、10月に避難訓練ということで月間を決めて市で一斉に行うことで、皆の関心も変わってくるのではないかと思います。防災訓練が主になると思うので、避難訓練をやるための健康増進ということになりますね。

《副部会長》

私は部会長・副部会長会議に出席しておりませんが、防災・環境部会についてはバスを借り上げてまでする必要はあるのか。

健康ということを当初目標としていたので、ウォーキングはどこでもできることですし、各地区でもお金をかけない方法があると思います。資料にある内容でいくと、イベントだけが要素になってしまっています。これでは本当健康にはならないと思います。バスの借り上げ等、全市的に行うとなれば3地区に分かれてもこの3倍はかかることとなりますね。また、それが月1回なのか1年に1回なのかといった問題もあると思います。

《部会長》

バス代は、往復ではなく帰りだけ送ってもらうということではあるが、1台分では全然話にならないと思います。市で予算を組んでくれるのであれば、地

区連毎に年1回は行ってもらいたい。

《事務局》

予算は必ずつくものではありません。

どのレベルでやるのかということが問題だと思います。

距離を長くすればそれだけ歩ける人を対象としなければなりません。

歩くことはコースを作ればどこでも歩けますし、その中でお金をかけずに健康増進するというのが、将来的に必要なだと思います。

《部会長》

この予算のバス代は1台ですよ。

《事務局》

モデルとして実際に行ってみて、その結果、健康について効果が得られるのであれば増やして拡大していきましようという話になると思います。いきなり全地区で全部やるということではなく、モデル的に取り組んだほうが良いのではないかと思います。

《部会員》

前から言っているように健康増進というのは健康だから言えることです。

実際に災害を受けた時には、避難行動ができない状況であるとういうことがありうるので、それを防ぐというテーマがこの部会ではないかと思います。未然に想定する災害とその災害に対応した避難行動のあり方を研究、普及と書いてあるのは、健康の原点である命を確保し、人身の障害を最小限に止めることができるように全市的防災訓練での研修を起点とした新しいノウハウの習得と、自地域での反復訓練を通じたハード、ソフト面からの体制整備やその訓練を行う体力づくりではなく、普段から多様な訓練を考えてやるのが良いのではないかということ、基本にしては良いのではと思います。

地域の事情に応じて、問題は何か、改善方法は何かを地域に提案するなど、防災という原点に戻ったほうが良いのではないかと考えています。

《副部会長》

始まりは、この防災・環境部会と健康とどう結びつけるかということで、皆さんとお話したときに、気軽にできるウォーキングが良いだろうということから始まってきました。

自分の地区で、ウォーキングを始めるのであれば、いつでもできます。それ

を積み重ねていくと当然健康に繋がると思っていますので、私はこれで良いと思います。

《部会長》

原点に戻って言うと、まず避難場所や道を確認する必要があり、自分の足でウォーキングしようということで、反復練習することで健康な体を作ることができるということですね。

《部会員》

せっかくやるのであれば、ウォーキングの健康増進だけでなく、避難経路の問題点を探るなどの、防災の本質的な部分にも取り組む必要があると思いますし、部会のメンバーとして、どう意識するかということが問題なのではないかということです。

《副部会長》

避難するために健康でありたいということですから、難しく考えることはないと思いますよ。

《部会員》

これは、健康を維持するためのウォーキングであり、皆が健康のためにするウォーキングを推奨しているということで、これをするのに、こういう場所もありますという提供が良いのではと思いますがどうでしょうか。

《部会員》

健康増進という観点からやるのであれば。

ウォーキングのテーマということであれば別に全然問題ないと思います。そのウォーキングの考え方にちょっとずれがあるのではないですか。

《事務局》

防災の部分だけではなく、環境や自然保護というところも防災・環境部会に入っています。

前回、話した時には自然の環境のところのふれあいや親しむというところがありウォーキングというところで話があったのかと思います。

《部会員》

防災・環境部会がウォーキングをやるのであれば健康増進だけでなく、この

部会がやるべきテーマをそこに乗せたほうが良いのではないのかと言いたいのです。

《事務局》

健康増進だけではなく、防災の部分と危機管理の部分以外にも防災・環境という環境の部分も入るので、防災・環境の環境の面を強調しているところです。前回の話の中では自然と親しんだり、途中でお茶を出してもらい、そういうところでもまた親しんだり、そういう話を前回していたと思います。

《部会員》

対策をどうするのか考えたら簡単に終わる話ではないので、せっかく歩いているのであれば周辺だけでも、問題のある道路や家屋などそういう課題を探る取り組みもやってみては良いのではないかいということです。

《副部長》

そういうことを考えても、予算については、防災・環境部会でバスまで借り上げとていうのは現状必要がないかと思います。

《部会員》

それは地域や町内会の組織の中で独自でやれば良いと思います。

《副部長》

予算をつけるためにやるのであれば、ちょっと話がずれますね。

《部会員》

予算化するといふのであれば、まとめのほうに行ってしまうですね。

《部会員》

健常者がウォーキングしながら、健康上避難が困難な人の健康を確保するために、そういう課題を抽出しながら歩くということは、その通りだと思います。実際には健康確保というか、命を守るという点では、避難所まで歩けるための体力を確保するという観点で考えていてもいいと思います。

ただ、防災・環境部会だからといって、防災というところに特化しがちなのかなと思います。確かに防災という点では、災害の被害になるもの、避難の障害になるものを取り除くということは非常に良いことですが、防災・環境部会だからといって、必ずしもそこに防災が入らなくてもいいのかなという思いは

あります。

《部会員》

バスに乗ってどこまでという話は確かにちょっと違うかなという気はします。ウォーキングに興味を持たせる手段として、普段は気がつかないけど、実は良い景色が見えるといった興味を持たせることで歩く習慣をつけさせるという観点では良いかと思います。それが健康増進に繋がって歩ける体力が付き、避難所まで歩ける体力に繋がりましたという考え方でも良いかと思います。

《部会員》

わざわざ遠くまで行く必要もないですし、自分の地域のところから良いところを探しながら避難所までの距離を歩き、その中で障害のあるものを取り除くような考え方をするという点では非常に良いのではないのでしょうか。

《部会員》

それと、家にいるかどうかも分からないですよ。いつ災害が起きるかわからないから、どこか行ったときに、ここが災害時に集まる場所だという観点で見るというのも良いのではないかと思います。

《部会員》

防災など訓練的な要素を入れると、訓練なんていないという人よりも、普段なかなか出歩けない人などが参加できると良いですね。

《部会員》

避難訓練というと、取っ付きにくいかという気がします。

《部会員》

防災に特化する必要はないのだけれども、例えば、健常者と障がいのある人が一緒になって動いてみるという機会を作ることも意義のあることだと思います。

《部会員》

高齢者が非常に多いので、健康増進というよりは健康維持ですね。

《庁内委員》

ウォーキングをしながら自然環境にふれることによる健康増進と、この健康

増進であることが念頭となっているので、表題を健康の確保や健康の維持など少しランクを下げたほうがいいと思います。増進だから健常者だけを対象にしているのではないとかいうふうになるので、この表題を変えていただくことは良いのではないのでしょうか。

《副部長》

表現が違うだけで、皆思っていることは同じなのですよ。

《部長》

マップができるので、景色のいい環境や避難場所はどこにあるかなど確認しながら歩くのも良いですね。

《事務局》

予算は関係ありませんが、地域での取り組みを推進するということでよろしいでしょうか。

マップの話もありましたが、これから都市調和部会でマップの作成に取り組むのですが、その中に避難所があるから、その位置も示していくようなマップ作りをするといった取り組みも可能かもしれません。

《副部長》

私個人としては、予算はいらないと思います。

《部長》

予算をつけてもらえるのであれば、違う区域に行ってウォーキングできますね。

《部会員》

予算をつけると、誰がやるのという問題が出てきますね。

《部長》

団体、市役所、部会、役割分担というものが必要になります。誰が企画して、誰がやるのかという、その役割分担も大事になります。

《事務局》

企画だけの自治推進委員会という捉えではなく、自分たちで考えてこういうことですので、事業には取り組んでもらいます。

《部会長》

役割分担がどの程度まで入っていけるのかですね。

《事務局》

少なくとも事業実施にあたっては皆さんには当日は来てもらうというような形になるかとは思いますが。

《部会長》

違う地域まで行って帰るというのもあるけれども、年に1回、全市1回なら予算が足りないですね。

《部会員》

不満もです。ね。

《部会員》

イベントにしない方向ですね。

マップの件は話を進めて良いのではないのでしょうか。

《事務局》

完成した段階で、多くの市民への普及を図るために町内会周知のチラシを作ってはどうか。

《部会長》

しかし、完成した後に配布してから追加の内容がある場合、倍のお金がかかりますね。一緒にやるといっても人数が膨大になってしまう。どの程度入れるのか。

《事務局》

6人、7人です。全部で15人くらいになると思います。

《事務局》

9地区全てできるかはわかりませんが、地区を分けて検討するという事もできると思います。

《部会長》

完全に近いものを作製するのは難しいですね。

《部会員》

その中で、防災・環境ということを入れれば、避難経路的な要素は入れて良いのではないかと思います。この辺に遊びに行ったときはここに避難しましょうということを入れてみるのも良いですね。

《事務局》

市の防災と地区連合町内会単位で津波の避難経路というのは、全て作っています。そこには、途中で川などの危険なものがないかなど、そういうのは24年度から3年くらいかけて作っています。避難所やどこまで浸水するかというのは市の防災マップと同じものを、地区版として拡大して作成しています。

話の中で取り組みとしては良いと思うのですが、独自に改めてこういう物が出てきたという要素を入れることができると思うのですが、同じものになってしまわないかという少し気になりました。

《部会員》

今、言った最新版のマップは、やるよ、やるよと言ったのが、人が変わってしまって宙に浮いている状態です。

《事務局》

そうでしたか。そこもまた確認しながら進めて行く必要があります。

《部会員》

景観緑の推進委員会という別の委員会があるのですが、そこでも同じようなことをやっていて、マップを作るような話になっています。景観ポイントやみどり遺産などが出てきていて、重複してしまう可能性があると思います。

《事務局》

作るのは委員会で作る形になるのですか。

《部会員》

リストアップした場所の視察に行きませんかという話です。

《庁内委員》

景観ポイントのマップではないですか。こっちで作ろうとしているのはウォーキングマップですから、違うかもしれないですね。

《事務局》

どのようなマップかはわかりませんね。
事務局のほうで確認します。

《事務局》

逆に言えば、観光協会や町内会などで行っている全市観光的なほうにも結び
付くかもしれません。

《部会長》

今日出た内容で、重複するところもあるので、1枚にまとめて送付して
いただきたいです。

《事務局》

事務局がまとめます。

《部会長》

よろしくお祈りします
お疲れさまでした。

【次回会議について】

年明け後、事務局にて調整